

平成30年度「学術交流協定校との国際シンポジウム開催支援事業」報告書  
 “Grant for International Symposium with Academic Partner University in FY 2018” Report Form

|   |   |   |           |                       |
|---|---|---|-----------|-----------------------|
| 申請区分<br>Type of Symposium                                 | Aタイプ（教員支援型）   |   |           |                       |
| 部門名<br>Division   | 応用化学  | 実施責任者 職・氏名<br>Responsible faculty member(Title, Name) |           | 教授・幅崎浩樹               |
|   |   | 実施担当者 職/学年・氏名<br>Organizer(Title/School Year, Name)   |           |                       |
| シンポジウム名<br>Symposium Title                                | The 7 <sup>th</sup> HU-CBNU Joint Symposium on Advanced Engineering   |   |           |                       |
| 実施期間<br>Date, Time  | 2018年7月4日－6日  |   |           |                       |
| シンポジウムの具体的な開催内容<br>Describe the contents of the symposium | 2011年から続いている本学と韓国忠北大学校との工学分野における学術交流シンポジウムの第7回目である。忠北大学校からは今回 Dean の Park 教授を始めとして5名の教授をお迎えし、化学、材料工学から社会工学までの幅広い分野で学術シンポジウムを開催した。また、忠北大学校ユン総長への名誉学位授与式と記念講演会も本事業の一部として開催された。  |   |           |                       |
| 出席者数<br>Number of Participants                            | 合計/Total 50 人/Participants  |   |           |                       |
|   | 内訳/Details  |   |           |                       |
|   | 人数/ Number of Participants  | 身分/Status   | 国/Country | 所属機関名/University Name |
|   | 5   | 教授  | 韓国        | 忠北大学校                 |
|   | 10  | 教授  | 日本        | 北大                    |
|   | 35  | 大学院生  | 日本        | 北海道大学                 |
|   |   |   |           |                       |
| シンポジウム開催による成果<br>Outcome                                  | シンポジウムに先立ち、本学側の講師のラボツアーを行ったことにより、忠北大学校の先生方に本学の先生方の研究内容をより深く理解いただくことができ、更にシンポジウムを通して学生交流も含めた今後につながる話し合いが行なわれた。両大学の工学系 Dean が直接参加されたことで、組織対組織の今後の交流の信頼関係を構築することができ、さらに忠北大学校ユン総長への名誉学位の授与を通して、大学間レベルでの今後の交流の発展も期待される。  |   |           |                       |
| 今後の展望と課題<br>Future prospects and issues                   | 今回のジョイントシンポジウムを通して、来年度、本学のロバスト農林水産工学研究拠点のシンポジウムを忠北大学校にて開催すること、インターンシップを含む学生交流の一層の推進、サマーインスティテュートへの忠北大学校からの貢献を含め、今後につながる有意義な意見交換が行なわれた。課題としては、2大学間の学術交流と今年度東義大学校で行われた第1回東アジアイノベーション促進フォーラムとの関係（両方を続けていくのか、どちらかを優先するのか）や今後の交流のための財源確保が課題として挙げられる。いずれにしても、これまで以上に忠北大学校の本学との学術交流および学生交流への期待と熱意を感じるシンポジウムであった。 |   |           |                       |
| その他<br>(本事業の要望等)<br>Comment for the grant                 | 協定校との交流事業を行うには不可欠な支援であり、今回支援を頂いたことで、忠北大学校の参加者と素晴らしい学術交流が行えたことに感謝申し上げる。大学化の国際化にこのような学術交流は欠かせないため、今後とも充実した支援をお願いしたい。  |   |           |                       |

平成 30 年度「学術交流協定校との国際シンポジウム開催支援事業」報告書  
 “Grant for International Symposium with Academic Partner University in FY 2018” Report Form

平成 30 年 12 月 14 日

|   |  |   |           |                       |
|---|--|---|-----------|-----------------------|
| 申請区分<br>Type of Symposium                                 | A タイプ (教員支援型) ・ B タイプ (大学院学生支援型)   |   |           |                       |
| 部 門 名<br>Division   | 応用化学部門   | 実施責任者 職・氏名<br>Responsible faculty member(Title, Name) |           | 教授・佐藤敏文               |
|   |  | 実施担当者 職/学年・氏名<br>Organizer(Title/School Year, Name)   |           |                       |
| シンポジウム名<br>Symposium Title                                | マテリアル化学と物理に関する北海道大学ー<br>国立中央大学ジョイントシンポジウム 2018   |   |           |                       |
| 実施期間<br>Date, Time  | 平成 30 年 11 月 15 日～11 月 16 日  |   |           |                       |
| シンポジウムの具体的な開催内容<br>Describe the contents of the symposium | 本シンポジウムは、台湾の国立中央大学と本学工学研究院・総合化学院・フロンティア化学教育研究センターとの交流を促進するために企画され、国立中央大学から教員 4 名と学部生・大学院生 11 名が参加した。シンポジウムでは国立中央大学の Tu Lee 教授と北大の松本謙一郎教授、石田洋平助教の講演の他、国立中央大学学生 11 名と総合化学院・工学部・工学院学生 29 名によるポスター発表 (合計 40 件) を行った。 |   |           |                       |
| 出席者数<br>Number of Participants                            | 合計/Total 55 人/Participants   |   |           |                       |
|   | 内訳/Details   |   |           |                       |
|   | 人数/ Number of Participants   | 身分/Status   | 国/Country | 所属機関名/University Name |
|   | 4  | 教員  | 台湾        | 国立中央大学                |
|   | 1 1  | 学部生・院生  | 台湾        | 国立中央大学                |
|   | 1 1  | 教員  | 日本        | 北海道大学                 |
|   | 2 9  | 学部生・院生  | 日本        | 北海道大学                 |
| シンポジウム開催による成果<br>Outcome                                  | 本ジョイントシンポジウムにより、新たな機能性材料の合成、機能、物性に関する研究の知見を教員および学生が得ることができ、また、国立中央大学と北海道大学の学生および教員との交流が促進された。  |   |           |                       |
| 今後の展望と課題<br>Future prospects and issues                   | 増田隆夫工学研究院長と国立中央大学教員との懇談で、ロバスト農林水産工学を含めた今後の更なる研究教育交流も確認され、来年度、国立中央大学を訪問する予定である。共同研究の可能性についても議論し、今後、共同で推進することが確認された。<br>来年度、本学の教員と学生が国立中央大学を訪問すると共に、国立中央大学の教員と学生が再度、来札する。  |   |           |                       |
| その他<br>(本事業の要望等)<br>Comment for the grant                 | 国際交流や国際共同研究の機会をサポートして頂ける良い支援事業だと考えます。事業の開始が年度前半でも可能になるように、募集と支援決定時期を早めて頂けると良いかと思います。   |   |           |                       |

